

## 平成29年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	佐賀県立唐津東中学校		
2 所在地	唐津市鏡新開1番地		
3 校長名	渡辺 孝一		
4 学級数	9学級	5 実施学年	2年
児童生徒数	353人	児童生徒数	118人

### 6 取組のねらい

高齢者や幼児の体験学習を通して、中学生の視点ではなく高齢者や幼児の立場や姿勢、行動の仕方を考え、家庭内の安全対策の工夫について考える。また、思いやりの心を育む。

### 7 取組の実際（写真等を入れ具体的な様子がわかるようにすること）

本校では、2年生の「健康で安全な住まい」の単元で取り組んだ。

- (1) 「黄色いメガネ」（白内障による高齢者の見え方）と「チャイルドビジョン」（幼児の水平方向の視野と垂直方向の視野）の疑似体験用のキットを作成した。



- (2) 安全に配慮しながら二人一組のペアになり、校舎内を歩く、階段の上り下り、遠くの文字を読む等の体験を行った。また、校舎内に自動販売機があるためその見え方も体験した。



(3) 実際に体験して家庭内においてはこういった箇所が危険だと感じるか、その改善点についてワークシートにまとめた。また、今日の体験を通してユニバーサルデザインについても考えた。

## 8 取組の成果と課題

中学生にとっては普段何気なくできる行動にも、高齢者や幼児には危険が及ぶことに気づき、いろいろな立場で考えてみることの重要性に気づいた。また、高齢者の視界は見えにくく、距離感がつかみにくいなどの特性についても理解でき、その為に不安な気持ちになることにも気づいた。ほとんどの生徒が、家庭内での危険箇所とその改善点について考えることができ、ユニバーサルデザインの効果や必要性を感じ取っていた。さらに、別日に実施した中学3年生の「子育てサロン」実習では、地域の親子（乳幼児）を学校へ招いて、母親へインタビューをした。妊婦時の体験や子育ての体験など貴重な意見を実際に聞くことができ、困っている方へ積極的に手助けしようと考えていた。

生徒は、困っている人がいると助けたいという気持ちを持っているが、実際にはそのような場面に遭遇してもなかなか実行することが難しいようである。今後は、多様な個性や違いを理解し、思いやりのある心を行動として実際に実践できる場につなげたい。

※必要に応じて、適宜、枠を広げ作成すること

※HPに掲載するので、個人が特定されるような写真は使用しないこと。